



龍門

題字は石野忠氏の揮毫

発行者
関東小山田会
(鹿児島県加治木町小山田を愛する会)
第4号
平成22年7月20日



始良市誕生記念 第十二回関東小山田会



第十一回の関東小山田会を四月二十四日(土)、東京・目黒の三州倶楽部にて総勢四十八名の参加で開催しました。

当日は、龍門中学校を昭和三十四年三月卒業の皆様、同窓会を兼ねて多数参加していただき、楽しい余興まで披露してもらいとても賑やかな懇親会となりました。

また故郷は、市町村合併により始良市となり、翌日が初めての市長選・市議選となるために市長さん等の参加は実現しませんでした。会員はじめ皆様から故郷の名産品や手打ちの特製うどん等を多数提供していただき、恒例の抽選会もスタッフ泣かせの盛大なものになりました。

我々裏方のスタッフにとり唯一のエネルギー源は参加者の皆様の笑顔であります。次回も皆様が、ご家族や知人を多数お誘い合わせの上、その笑顔を見せてくださることを心待ちにしています。

諸先輩方が苦勞して築き上げたこの会の益々の発展の為に、皆様のより一層の温かいご協力をお願いします。

(会長 二之方信良)



随筆

くろり観音



第二代会長
猪目 寛

古利・仏像巡りを始めてから久しくなります。学生時代、越後・秋山郷の草葺の庵で、身の丈ほどの観世音菩薩立像と祈りをささげる老婆を目にしたのがきっかけでした。

その後五十年余り、筋道立てた札所巡りではなく、白装束をまとう巡礼でもなく、ありきたりの旅姿で歩き回っています。

昨今は仏像秘宝ブームとかで秘仏や国宝・重要文化財をお目当てにした中高齢の女性で混雑し、ゆっくり拝観できないこともしばしばです。二百十七年ぶりの秘仏ご開帳とされる紀伊・粉河寺の千手千眼観音を参詣したときなど若い人が一人も見当たらず、觀光バスの旗を持つガイドさんまで「昔娘」という異様な光景。結局「老男老女」の団体さんに千手堂から押し出されてしまいました。

しかし、近江の「観音の里」を訪ねたときは、悠久の歴史に思いを馳せながら時を忘れて癒しの空間に浸ることができましたし、出羽・寒河江の慈恩寺では数多の仏像に囲まれて、背筋を水に打たれる思いでした。



会津のくろり三観音の一つ
鳥追観音如法寺

なかでも、近江湖北にある赤後寺の『くろり観音(聖観音菩薩、千手観音菩薩)』と会津盆地の『くろり三観音(鳥追、立木、中田)』には特に思いを込めてお参りしました。「長患いせずコロリと極楽往生できますように」と頼んで来たのです。はてさて、ピンピンコロリと往けるやら・・・。



